

令和元年9月3日
北海道留萌高等学校
渋川 亮

2019年度日本生物教育会（JABE） 第74回全国大会岡山大会 大会派遣報告

1. はじめに

今回、令和元年8月6日～7日に行開催された標記大会に、北理研派遣枠にて参加させていただいた。令和3年の北海道大会に向けた視察という目的と、全国の方々とのおふれあいの中で、理科教員としての資質を向上させるきっかけにしたいと考えていた。以下に全国大会の報告を記す。

2. 岡山県

8月5日（月）の夜の便にて20:30に岡山空港に到着したのだが、夜中にかかわらず、気温は30度を超え、北海道在住の私には耐えがたい環境である。到着して夕食をとったが、岡山の郷土料理によく使われるという「ままかり」というニシン科の魚を



いただいた。フルーツのイメージがあった岡山県であったが、瀬戸内海の水産物も充実しているようだ。

3. 1日目

大会のメイン会場となったのはIPU環太平洋大学第1キャンパス。東岡山駅よりシャトルバスが運行しており、農道やちよ

っとした峠道を抜けると15分ほどで立派な校舎に到着する。校舎に入り、受付をしようとする、すぐに大会役員の方に声をかけてもらい、非常に丁寧な対応をしてくれて不安感はすぐに取り除かれた。

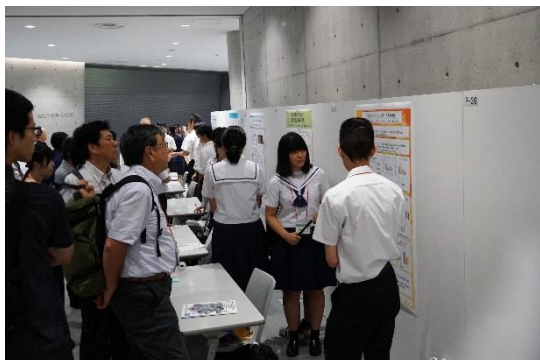
大会初日の午前は開会式・総会の後、記念講演が2回開催された。大会主題は「わくわくする生物教育」ということで、大会役員のお挨拶や来賓の方も「わくわく」という言葉を合い言葉のように発言していた。記念講演Ⅰは公立鳥取環境大学環境学部の小林朋道教授による「『わくわくする生物教育』・・・いいね！進化教育学のすすめ」。記念講演Ⅱ



は岡山大学大学院環境生命科学研究科の宮竹貴久教授の「昆虫の行動を科学するーわくわくして研究をしてきましたー」である。特に宮竹教授の外来種「ウリミバエ根絶」の話が印象的であった。昆虫が好きでそれを仕事にし、信念を持って研究や外来種の根絶に力を注いだ情熱は、見習うべき点が多くある。

昼休憩ではポスター発表も開催されてお

り、自由に好きな発表を聞くことができた。ポスター発表は2日日程で行われ、教員4件、高校生が18件と、多くの高校生が研究の成果を披露していた。



その後、シンポジウムでは、記念講演の2名の教授に加え、文部科学省初等中等教育局の藤枝秀樹視学官、岡山大学大学院自然科学研究科の井上麻友里准教授のセッションで、ざっくばらんな話を間近で聞くことができて、大変親近感がわいた。

その後口頭発表が6会場に分かれて行われた。どの発表者も次代を見据え、先進的な



実践をされており、刺激となり、非常に有意義であった。それとともに、全国の先生方の研究の、根拠に基づくクオリティーの高さに圧倒され、普段の自分の実践が恥ずかしく思い、より一層努力をしなければならないと焦りを感じた。また、我らが北海道代表の帯広三条高校の堀口教諭も「生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身につ

ける授業方法の研究」と題して、全国の先生方を前に、堂々と発表されており、非常に頼もしく思えた。内容も私の今の課題である授業改善についてのもので、参考にして実践していきたい。

夜は同大学カフェテリアにて意見交換会が行われた。岡山のみなさんが料理や地酒、ゲーム等でもてなしてくれて、大いに盛り上がった。次年度の長野のみなさんの挨拶、そして我々も存分にアピールすることができた。みなさんは北海道に対しての興味関心が高く、令和3年度は多くの参加者が見込めそうだ。

4. 2日目

午前中は1日目の午後同様、口頭発表があり、その後文科省の藤枝視学官の特別講演であった。新学習指導要領の方向性をわかりやすく解説いただいた。最後の、マニュアルはなく、各教師が自分なりの解釈を進



め、考え方を持ってもらいたいという言葉に、子ども達を育む我々教員の責務の重大さを再認識した。全体での日程はこれで終了し、次に現地研修がA～Iの9コースに分かれて行われた。私はアユモドキでわくわくコースという半日コースを体験した。国の天然記念物に指定されている淡水魚「アユモドキ」についての調査や保全活動について学習した。実際に「瀬戸アユモドキ

の里」という保護区域に赴き、直接池に入りアユモドキを探した。ウェダーをはき、網を持って探すと、エビやタガメ、ミズカマキリや巻き貝類など多様な生物がいた。アユモドキは中々見つからず、帰ろうとしていた



ら、違う場所で探していた方々から歓声があがり、1匹見つかった。その後、キリンビール岡山工場にて、株式会社ラーゴ生物多様性研究室室長の阿部司氏の講演にて、アユモドキ保全活動やその意義など解説していただいた。この活動は、地域が一体となって行い、子どもたちへの地域環境への関心が強まったり、コミュニケーションの能力も向上したということだ。そして、自然や生き物に対して、また地域に対して愛着が生まれたということ。また、家族も巻き込んで関心が高まっているようだ。ちなみに、キリンビールでの講演だったため、試飲ができるのかと思ったら、できなくて残念だった。

最後に岡山県農林水産総合センターにて講習を行った。ここでは、農作物の品質向上や品種改良、病気などの研究が行われている。最新機材の、においを嗅ぐことができる機械があることに驚いた。外には畑もあり、立派なブドウになっていた。ちなみに、ここにきたと言うことはブドウの試食もさせてくれると思ったが、できなくて残念だった。



5. 最後に

この2日間と通して、一番感じたことは、岡山県のスタッフの方々の対応がすばらしく、みなさん協力しながら運営にあたっているということである。おそろいのTシャツを着用し、万全の体制で行われていた。1つのコースにおける人数も十分に確保されており、至れり尽くせりである。アユモドキの研修に行った日は台風通過後で気温32



度に加え、湿度が高く、ウェダーの中が汗だくとなっていたが、すぐに凍ったタオルと飲料水を差し出してくれた。我々も北海道大会では各都道府県より参加していただく方々におもてなしの心を持って、チーム北海道で一丸となって入念な準備をしていかななくてはならないと感じた。また、余市方面の巡検担当者として、責任感が沸いてきた。

最後に、今回の研修に派遣していただいた北理研と北生教に感謝し、研修報告いたします。ありがとうございました。